

9 ロイヤル・ブロンプトン・ホスピタルの設立について

柳澤波香

ロイヤル・ブロンプトン・ホスピタル (The Royal Brompton Hospital) は、Hospital for Consumption and Diseases of the Chest の名称で、一八四一年、結核専門病院として、ロンドンに設立された。

一九世紀のイングランドにおいて相次いで設立された専門病院は、その殆どが、疾患ごとの特殊性に着目した医師の尽力によるものであったのに対し、この病院はロンドンの弁護士フィリップ・ローズ (Philip Rose) の発意により設立された。

一八四一年春、ローズの事務所員が結核に罹患した。ローズは、事務所員の入院をロンドン市内の数々の病院に要請したが、結核であるということ事由に入院は拒絶された。セント・ジョージ病院 (一七三三年創設) な

どは、結核をはじめとする伝染性の患者の収容を許可しない旨を病院規則に明記しており、一般病院は結核患者の収容を認めていなかったのである。

ロンドンの結核に因る年間死亡者数は当時六万人にものぼっていた。結核患者を取り巻く病院医療の実情を憂えたローズ弁護士は、結核専門病院の必要性を認識し、その創設を決意した。一八四一年五月八日、ハンス・ブレース四一番地で、同僚弁護士のバクスターら数名の篤志家と会合を開き、結核専門病院を首都圏に創設する旨、病院設立の目的は他病院から除外された結核患者の保護と、疾病の特質に関する正確な知識と治療に結びつく研究の機会を提供する旨などの目標を定めた。

翌一八四二年三月、グレート・マルボロー・ストリート二〇番地に、Hospital for Consumption and Diseases of the Chest の外来部門が開設され、診療が毎日行なわれた。来院が困難な患者に対しては往診を行なった。同年九月、ローズは、十年間の賃借契約で、チェルシーのマンナーハウスを借り、二〇床の病棟を設置した。ローズは、病院医師の責務や資格に関して規定し、College of

Physicians の会員であること、他の病院や診療所との兼任は許可しないこと、結核の診断に優れた経験を有すること、症例の詳細な経過観察に献身する勤勉性を有することを明記した。また、診療曜日と時間を定め、医師のみが食餌や薬の処方が可能であるとした。ローズの交友関係を反映して、John Forbes, Charles James Williams, Robert Liston, William Roe, Walter Walshe, Teophilous Thompson らが病院医師となった。

やがて、病院にはヴィクトリア女王をはじめ、王族や貴族からの支援も寄せられた。チューダー様式の新棟建設が決まり、一八四四年、アルバート公がその礎石を据え、一八四六年、六〇床の入院施設が完成した。以後、一八四八年までに更に三つの別棟とチャペルが完成した。当時の入院患者数は、年間約三百名、外来患者数は約五千名であった。

病院設立時は、ロベルト・コッホによる結核菌の発見（一八八二年）よりも前のことであったので、医師らは、結核の病因を、年齢、性別、社会的環境、職業、遺伝のうえから考察した。また患者に対して、最善の治療と共

に精神的な慰めが提供されるように配慮された。

病院は、一九七三年、London Chest Hospital（一八四八年設立）、National Heart Hospital（一八五七年設立）と研究部門を統合し、一九八八年、National Heart and Lung Institute を設立した。更に一九九八年、英国政府の医療制度改革の一環として、Harefield Hospital と統合され、現在は The Royal Brompton & Harefield NHS Trust となり、今日も胸部疾患の先端的医療開発の拠点となっている。

（青山学院大学・津田塾大学）